

## 助成事業実施報告書

団体名 災害ボランティア愛・知・人

代表者・役職名 氏名 赤池博美

### 1. 助成プロジェクト名

被災地から学ぶ防災・体験型ボランティア講習会

### 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2011年3月東日本大震災をきっかけにアウトドア仲間20名と義援金を集め被災地に寄付。同年4月団体を設立しGWに石巻市ボラセンにて活動。その後東松島市矢本運動公園仮設住宅で炊出しやイベント活動。毎年各地で起きる水害被災地でも活動し平時は地元の社協や行政と共に防災・減災活動。会員数は約700名ですが被災地で活動しているのは100名、以外は寄付金で活動を支援。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

東日本大震災より7年、毎年のように起きる水害被害。災害時には防災意識が高まり支援も集まりますが、時間の経過と共に関心が薄れていきます。災害を止めることはできませんが、被災した方から「学ぶ」ことで少しでも人的な被害を減らすことが大切です。また大切な命・家は自分で守る必要性を理解いただき、一般市民の方に向けて実践型の講習会を開催しました。今やボランティアの力なくして復旧はないといえるほど多くの方が被災地に入ります。混乱する被災地で予備知識を持って参加する人材を育成する必要性を感じています。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

東松島市・常総市・日田市から「語り部」を招き、災害から命を守る大切さや実際何をするべきか、そして復興への取り組み方について学びました。昼食は炊き出し体験として豚汁・アルファ米の試食。午後からは4班に分かれ4つのブースをリーダーと共に体験。被災家屋を想定した模型を使い体験型の講習。講師は経験豊富なメンバーが行い、①床下の泥だし②屋根のブルーシート張り③避難所体験④協力団体がそれぞれの特性を生かした災害に対する取組を紹介する10ブースを出店。また被災地でも必要とされるレクリエーションとして子供向けゲームやパルーンアート・音楽を取り入れました。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

春日井市のみならず市外、県外からも参加頂き、来場者は104名。スタッフ合わせて200名が参加。アンケート結果も高評価を得て、被災地からの語り部は「被災された方の話を聞いて良かった」と心に響いたようです。午後の体験会も真剣に取り組んでいただき、スタッフの説明にも力がこもっていました。またいきなり当日だったメンバーも多かったのですが一人一人が自発的に臨機応変な行動をとり、混乱もなく時間通りに終了することができました。今後被災地となりうる地域において1人でも多くの方に防災知識やボランティアの心を広め防災について学ぶことで災害を忘れず、災害に関心を持ち続ける大切さが伝わった1日だったと思います。

### 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

メンバーが全国にいるため、事前準備は十分とは言えませんでした。しかし災害現場がそうであるように、一人一人がその場に求められる対応をし、自発的に動くことで大きな力になるということを改めて感じた1日でした。また協力団体の方からは積極的に企画を提案頂き、1団体ではなしえないことができました。集客はチラシ8000部、SNS、HPで発信しましたが、結果知人の口コミが一番多かったのは団体の認知度が低いということ。今後は認知度を高める努力が必要。開催にあたり被災地の市長さんからメッセージを頂いたことは大きな励みになりましたので、民間と行政が手を取り合い災害に強い街づくりを推進していきたいと思っています。

### 7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり

# 災害ボランティア愛・知・人「語り部の会・ボランティア体験会」

2018.3.25

## 【オープニング】



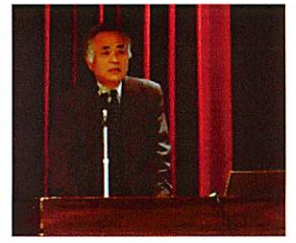
愛知人代表 赤池博美



日田市市長 原田啓介氏



常総市市長 神達岳志氏



春日井市社会福祉協議会会長 黒田龍嗣氏

## 【午前:語り部の会】

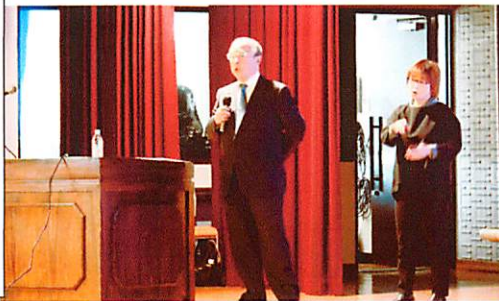


①東松島市の高校生語り部さつきとひかる。震災当日のリアルな体験談。当時の写真を客席に持って回り説明。そして防災クイズ



②常総市から、庭を愛知人の活動ベースとして提供頂いた寺岡さん。被災当時から現在の復興状況までを映像を交えて語り、仲間からのビデオメッセージも。

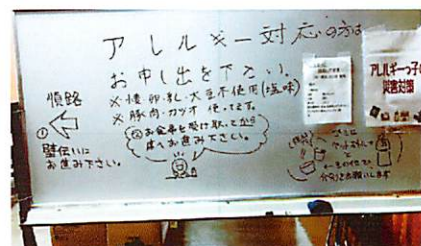
③日田市から大肥本町自治会長石井氏。住民の皆さんから寄せ書きを預かり登壇。全国から駆けつけたボランティアにより、泥出しなどの片付けはさることながら、気持ちの面で救われたと。



【昼食】メニューはアルファ化米・豚汁・じゃがりこのポテトサラダ（お湯を入れてかき回すだけ）



豆腐・味噌のアレルギー対策の豚汁も用意





【午後:ボランティア体験会】 約 80 名を 4 班に分けリーダー（愛知人メンバー）と共に 4 つのブースを体験

①ブルーシート張り体験

屋根の模型を用意し、高所作業時の装備や資機材を説明。業者に依頼した場合、悪徳業者に気を付けましょう！という注意喚起も。



②床下泥出し体験

2 畳分の模型で、畳とボールで床板をはがした後、床柱や壁の養生のやり方。狭い床下に潜り込んで狭さを体験したり、スコップで泥をかきだし土嚢袋に入れる作業を体験



③避難所体験ブース

東松島市で 50 名収容の民間避難所を立ち上げた方と熊本地震で 1000 名収容の避難所のリーダーを努めた方の実体験を聞き、避難所とは実際どういうところなのか、何をすべきかを学んだ。



④フリータイム

10 団体の協力で団体の活動展示ブース、防災ゲームブース、音楽、バルーンアート、ポップコーン、防災用品販売、東北物産展などのブースを自由に見学。カスガイガー・ハルフシさんも登場



「守ろう財産！守ろう命！」がテーマ。災害に関心を持ち続けて頂くことが私たちの活動の目的の一つです